



## 豊橋ロータリークラブ

例会場=ホテルアークリッシュ 豊橋 TEL 0532-51-1111  
事務局=豊橋市花田町石塚 TEL 0532-53-3774  
豊橋商工会議所内 FAX 0532-56-6006  
〔URL〕 http://www.toyohashi-rc.jp  
〔E-mail〕 office@toyohashi-rc.jp

第12回 (通算3025回) 平成23年9月29日

本日のプログラム：職業奉仕について

—職業奉仕委員会担当—

### <本日のゲスト>

㈱パン・アキモト

代表取締役 秋元 義彦 氏



ゲストの秋元義彦氏と記念撮影

### <本日のビジター>

田原RC 富田 雅則 会長  
安田 幸雄 直前会長  
天野 英一郎 幹事

### <会長報告>

なし

### <幹事報告>

1. 青木正光会員の所属委員会は、ニコニコ委員会、クラブ奉仕委員会です。

### <出席報告>

総会員数 122名  
計算会員数 106名中 23名欠席  
出席率 78.30%  
前々回修正出席率 96.15%  
(発表者：兼子 直久 副委員長)

### <歌>

“赤とんぼ”

ソングリーダー：松井 孝悦 会員

### <例会予定>

10月13日(木)12:30~  
ガバナー補佐訪問

10月20日(木)12:30~  
米山月間にちなんで



パンの缶詰「救缶鳥」

### 《あなたの救缶鳥が世界を救う》

秋元 義彦 氏



私は栃木県的那須高原でパン・洋菓子の製造販売を昭和22年より営んでおります。本日は豊橋RCの例会にお招き頂き大変感謝しております。私は中小企業の社長の集まりで、社団法人関東ニュービジネス協議会に所属し小委員会での勉強会に参加しております。委員会ではピカッと光る中堅企業を目指そうと「ピカチュウ」という愛称を付けました。豊橋RCのクラブテーマと共通点があるようで嬉しく思います。小委員会の例会ではルールと罰則を定め緊張感を持って例会に出席しお互いに切磋琢磨しております。本日会員の皆様方から例会での緊張感が伝わり私も緊張をしております。私はこの心地よい緊張感がとても大切であると常々感じております。

さて当社が所在する那須高原の一部は、福島第一原発事故のホットスポットとして報道され、観光事業の皆さんは風評被害に苦しんでおります。しかし、被災地の皆様のように、震災で命や財産を失う事態に陥ることもありませんでしたので、何か被災地の皆様のお役に立つことが出来ないかと、被災地へ義援パンとして「パンの缶詰」を送るプロジェクトを立ち上げ、皆様の善意をパンに託して被災者の方々にお送りしています。

当社の「パンの缶詰」誕生のきっかけとなったのは、95年に発生し阪神淡路大震災でした。あの悲惨な状況の中「パン職人として何か出来ることはないか？」という思いに駆り立てられ、すぐに支援物資として大量に当社のパンを現地へ送ったのですが、一部のパンは日持せず廃棄処分となりました。そんな状況下、被災者から「カンパンのように保存性がある、しかも焼きたてのようなふっくら・しっとりのパンは作れないのですか？」との意見を頂き、これが「パンの缶詰」開発のきっかけとなりました。その後保存性の高い美味しいパン作りのチャレンジが始まり、その年の春に「パンの缶詰」を開発いたしました。新しいことを始めることはとても難しいことですが、それがお客様の困り事や要望だった場合、大きなビジネスチャンスになるのではないかと考えています。私は、出来ないと思うのではなく、出来るかもしれない、と仮説を立てて取り組むことに価値があると考えています。

また「パンの缶詰」の開発後、海外飢餓地域へ社会貢献が出来ないものかと考え「保存食リユースシステム」を構築し、海外飢餓地域へ「パンの缶詰」を義援物資として送っております。3年間の賞味期限のうち、2年間はお手元で有事・災害時用の非常食として備蓄した後、残り約1年の賞味期限の間に下取り回収し、NGO法人日本国際飢餓対策機構と協力して海外飢餓地域支援へ役立てる、これが「救缶鳥」プロジェクトです。このことがメディアでも多く取り上げられ、各自治体から大変注目されています。通常、備蓄用非常食は賞味期限が過ぎると処分されゴミになりますが、私たちのプロジェクトではパンを食べ終わった空缶は、義援先の国々で食器類として利用されますので、ゴミもなくなり国際貢献にも役立ちます。ご興味を持たれましたら、まずはご自分のために備蓄をして頂きたいと思っております。そして、それがいずれ企業のため・海外のために役立つと信じています。ご清聴有難うございます。